

## 九段坂病院を受診された患者さまへ

当院では下記の臨床研究を実施しております。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で診療情報等を研究目的に利用または提供されることを希望されない場合は、下記の問い合わせ先にお問い合わせ下さい。

研究課題名 (研究番号)	過敏性肺炎の全国疫学調査
当院の研究責任者 (所属)	露木 俊 (内科)
他の研究機関および 各施設の研究責任者	東京医科歯科大学統合呼吸器病学 宮崎泰成
本研究の目的	<p>&lt;研究の概略&gt; 種々の抗原により発症するアレルギー性の間質性肺炎を過敏性肺炎と言います。線維性過敏性肺炎は進行すると労作時息切れを自覚し長期の療養が必要となり、線維化の進んだ過敏性肺炎の平均生存期間は3年弱と予後不良です。また、本症は小児期にも発症し呼吸不全を来し肺移植を受けている患者さんもいることが知られており、小児から成人に至る詳細な臨床像は明らかにされていません。</p> <p>この過敏性肺炎は現在まで十分な疫学調査が行われておりません。患者数は1～2万人いると考えられていますが、これまで患者数を推定するための全国疫学調査は行われておりません。また、今まで確立した診断法はありませんでしたが、日本呼吸器学会より「過敏性肺炎診療指針2022」が2022年4月に発刊され、診断が標準化されました。本研究では、「過敏性肺炎診療指針2022」に基づいて疫学調査を行うことで、過敏性肺炎の正確な有病率および罹患率、疾患特性を明らかにしたいと考えております。</p> <p>&lt;研究の意義・目的について&gt; 1991年、1999年、2013年に厚生労働省政策班主導で疫学研究が行われております。しかし、これらは主要な医療施設に限定された調査であったため正確な有病率や罹患率が出せませんでした。そしてその後ほぼ10年間疫学調査は行われておりません。本研究は、「過敏性肺炎診療指針2022」に基づいて疫学調査を行うことで、①2022年4月に発刊された過敏性肺炎診療指針の検証、改定に向けた調査、客観的な診断基準・重症度分類の策定、②有病率・罹患率の推定、③小児から成人への移行期医療体制の構築、を行うことを目的とします。</p>
調査データ 該当期間	2021年1月1日～2021年12月31日の期間とする
研究の方法 (使用する試料等)	<p>●対象となる患者さま 例) 上記期間内に過敏性肺炎疾患で当院を受診された患者さま</p> <p>●利用する情報 電子カルテに記載のある診療記録、検査データを利用する 診療で採取した肺の病理組織標本を利用する</p>
試料/情報の 他の研究機関への提供 および提供方法	多施設共同研究であり、上記の共同研究機関・研究責任者へ郵送および電子配信等で提供

<p>個人情報の取り扱い</p>	<p>利用する情報から氏名や住所等の患者さまを直接特定できる個人情報は削除致します。また、研究成果は学会等で発表を予定していますが、その際も患者さまを特定できる個人情報は利用しません。</p>
<p>本研究の資金源 (利益相反)</p>	<p>本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません</p>
<p>お問い合わせ先</p>	<p>電話：03-3262-9191 担当者：九段坂病院 内科 露木 俊</p>
<p>備考</p>	